

日本語別科における日本語教育の現状と課題

Current Situation and Issues of Japanese Language Education in a Special Japanese Language Program.

田仲 安則¹⁾ 佐藤 正則¹⁾ 山道 有香¹⁾

抄録

本稿では2015年4月に発足した山野美容芸術短期大学日本語別科における日本語教育の現状と課題を述べる。日本語別科の主たる役割は大学や短期大学など高等教育機関への進学を目標にしている。本稿では、別科のカリキュラムデザイン及びシラバスについて概要を述べた上で、2016年度の活動報告をする。また、国語教育と第二言語の習得を目的とする日本語教育はどのような違いがあるのか、どのような組み立てられ方で教育されているのかにも言及する。

キーワード：日本語別科、予備教育、日本語教育と国語教育、漢字圏、非漢字圏

1. はじめに

1-1 創立の経緯

山野学苑では1998年、代々木に山野日本語学校が設立され、外国人留学生が日本で短大・大学・大学院、専門学校など、高等教育を受ける目的で予備教育としての日本語教育がなされるようになった。さらに、2015年4月からは山野美容芸術短期大学(以下山野短大)でも、日本語別科(以後別科と略)を設立し、日本語学校と同様、美容を志す留学生のみならず日本で高等教育を受けんとする留学生を対象に予備教育を開始した。2015年度は八王子キャンパスではなく代々木の山野美容専門学校の校舎の一部を借りての出発であったが、2016年4月から八王子キャンパスに移転し、本格的な予備教育が行われ始めた。本稿は、別科の概要と、2016年度の活動を報告し、現状と課題を述べる。

1-2 入学期と修了

日本語教育機関の入学期は、毎年4月と10月の年2回(学校によっては4回)が一般的である。日本の教育システム通りの4月入学と、海外の7月卒業に合わせ、10月入学の制度を日本語教育振興協会が定め、現行に至っている。実際の入学に当たっては、山野短大日本語別科の入学許可を受けた志願者は日本の法務省入国審査局に在留許可の申請し、許可を受けた後、

母国の日本大使館でビザの発給を受け、日本への入国、山野短大日本語別科への入学になる。ちなみに、別科への志願、入学許可、在留許可の申請、許可を受ける手続きに関しては山野短大の事務局が行い、在留許可証を本国で受領したのちは、各自日本大使館に入国許可申請を行い許可が下りるのを待つ。各国の事情によっては入国許可が下りるまでに時間がかかる場合も多く、4月の入学予定者が6月の末に入学してくる場合もある。4月に一斉に入学し授業が開始できる日本人の場合とは様子が異なり、遅れて入学してくる学生は最初からハンディを背負うことになり、担当する側からも大きな問題になっている。

修了については、4月スタートの1年コースと10月スタートの1.5年コースともに、毎年3月、各専攻の学位記授与の時となっている。大学、短大、専門学校への進学には、どこの教育期間でも日本人とは別枠で受け入れている。ただし、日本人の志願者と違う点は、留学生の場合面接試験が課されている。人物の他に日本語の会話力、つまり日本人のクラスで学習できる日本語のコミュニケーション能力も試されている。

1-3 日本語別科の業務

別科は基本的に常勤と非常勤の教員で構成され、2017年度現在は、常勤教員3名、非常勤教員10名で構成されている。常勤教員が担任を受け持ち、常勤、非常勤教員で役割分担し、授業を行っている。常勤教員はシラバス、カリキュラム作成、学生管理と授業を

1) TANAKA Yasunori SATO Masanori
YAMAMICHI Yuka
山野美容芸術短期大学
連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530

担当し、非常勤教員は常勤教員から指定されたシラバスに則った授業を行う。シラバスは学生の進捗状況などを見ながら微細に変化させるため、一か月単位でその制作を行っている。月ごとのシラバス作成は担任にとって最も重要な任務で、1年間、或は、学期中にどれだけの分量を教えられるか鍵を握っている。その他、担任は三か月に一回行われる中間試験、期末試験の結果から学生一人ひとりの学習評価と進路、生活指導などを行っている。例として文末に、2017年度別科Aクラス6月のシラバスを掲載する(表1)。

2. 日本語教育と国語教育の違い

2-1 日本語教育における五つの技能

日本語教育は、文字語彙、文法、読解、会話、聴解の五つの部門から構成されており、日本語能力試験などでも、この五つの部門に分かれて試験が行われている。

特筆すべき特徴といえば文字語彙の分野では文字が三種類あることだ。例えば、英語などヨーロッパを中心に使われている言語を初めとしてほとんどの言語の文字は一種類しかないが、日本語は「ひらがな」「カタカナ」「漢字」と三種類の文字を使い分けなければならない。その上漢字は複雑な画数を持っており、読み方も何通りもあるため、非漢字圏の学習者はいかにおよばず、漢字圏の学習者にもその修得には多大な努力が要求される。

文法についても「普通体」「ていねい体(です・ます)」「敬語」などの使い分けのほか、多岐にわたる動詞の活用など、その複雑さを知識として習得し、コミュニケーションのスキルとしても修得と活用には時間と努力とまた、忍耐も必要である。

2-2 国語教育と日本語教育の呼称の違い

2-2-1 品詞の呼称

品詞の呼称における国語教育と日本語を母語としない学習者に対する日本語教育との異同では名詞、動詞、副詞は同じであるが、形容詞は「い形容詞」、形容動詞は「な形容詞」と呼んでいる。

2-2-2 動詞とその呼称

次に、動詞は国語では「五段活用動詞」「下一、上一段活用動詞」「サ行変格活用動詞・カ行変格活用動詞」という呼び方であるが、日本語教育では「五段活

用動詞」はグループⅠ、「下一、上一段活用動詞」はグループⅡ、「サ行変格活用動詞・カ行変格活用動詞」はグループⅢというようにグループ分けで指導している。また、初級後期には自動詞・他動詞、意志を表す意向形、受身形、使役形、使役受身形の修得も課される。

その活用形の呼び方は国語とは大きく異なる。国語教育では「未然」「連用」「終止・連体」「假定」「命令」という形で教育されているが、日本語教育上では「ない形」「ます形」「辞書形・連体形」「ば形」「命令形・禁止の命令形」と呼ばれ、日本語教育にはその他に「て形」「た形」「意向形」「受身形」と呼ぶ活用もある。文末の一覧の表で参照していただきたい(表2)。

3. 別科のカリキュラム

3-1 学習時間とレベル

別科での1年間の授業時間は概ね900時間で学部の授業時間数より若干多い。しかし、大学、短大、専門学校で日本人クラスに入り高等教育機関で日本人に混じって授業を受けるには、この時間数での予備教育では非漢字圏の学習者を中心にかなり難関のようである。10月入学してくる1.5年コースでも文字語彙の基本的な知識とスキルの定着は困難をきたしているようである。

学習時間と日本語のレベルは厳密には個人差があるが、各教育機関で初級、中級、上級と定めている場合が多い。一般的には初級は入学してから六か月、次の六か月は中級、その次が上級と言われている。

3-2 学習の目標

冒頭でも述べたが、別科は山野美容芸術短期大学、または他大学、専門学校で学ぶための予備教育である。しかし、予備教育における日本語教育は、大学等の高等教育機関に合格できればそれでよいわけではない。入学後、高等教育機関での専門的な学びに対応できる日本語力の育成も必要である。そこで、別科では、大学等で必要とされる能力、自らの課題を発見し、他者との協働の中でその課題を解決するための言語コミュニケーション能力を養うことも重視している。だが、そのためには、前提として、言語知識をしっかりと学ぶことが大切である。また、日本文化、日本事情等の理解も欠くことはできない。以上の点を考慮して、

別科では初級の段階では、言語知識と理解重視、中級以降は、言語知識の学習に加えて、技能別の実践、文化を主体的に考え学ぶ活動の実践も取り入れている。

3-3 カリキュラム

教科書には初級では『みんなの日本語 I・II』（スリーエーネットワーク）、初中級以降では『学ぼう！にほんご』（専門教育出版）を使用している。『みんなの日本語』は、初級の日本語教育では、世界各地で最も使用されている教科書で、補助教材も充実している。構造シラバス（いわゆる文法積み上げ）で構成されており、総合的に時間をかけて日本語を学ぶ学習者には適している。初中級以降の『学ぼう！にほんご』は、話題シラバス（「本文」→文型→作文や会話等の技能）でできている。

初中級以降は、文法よりも語彙に力を入れ、読む・書く・聞く・話すという各技能、さらに各技能を総合した活動を取り入れ始める。

学習形態としては初級の段階から協働学習（ピア・ラーニング）（池田・館岡 2007）を取り入れている。例えば作文活動では、初稿に対しては学習者同士で読み合い、話し合い、助言しながら第 2 稿に取り組む。初級の段階では母語に頼ってしまったり、どうしてよいか分からなくなってしまう学生もいるが、ピア・ラーニングを様々な活動に取り入れることによって、他者とともに課題に取り組み、解決していこうとする課題発見解決学習の力が養われるのである。

評価は、文法・語彙・読解・口頭表現・聴解・作文・総合の科目に分け、大学と同等 5 段階で行う。文法・語彙・読解・聴解は中間テスト・期末テストの得点に、平常点を加味する。また、口頭表現や作文の評価は、期の終りに、通常の活動のまとめとして担任がパフォーマンス評価を行う。その際、期の途中の成果物も参照しながら総合的に評価を行っている。

4. 2016 年度の報告

2016 年度の様子を報告する。冒頭でも述べた通り、別科は 2016 年度から八王子の山野短大校舎に移転した。2016 年度前期は、別科 A、別科 B の 2 クラスから始まった。A クラスは、ベトナム・中国・韓国の学生 9 名で、日本語力にばらつきがあり、モチベーションの低さが感じられた。都心に住まいがあるため、遠

距離通学になる学生が多かった。そのため、出席率が低下する学生も数名おり、学生の出席率維持に相当苦労した。さらに、日本語力に相当差があったため、一律的なシラバスが、彼ら／彼女らの学習の意欲を削いでしまうこともあった。

B クラスは、全員が 2016 年度前期に入学した学生である。ベトナム・中国・韓国・台湾・香港の学生の 18 名で構成されていた。その中の数名は、最初から短大の美容デザインコースを志望しており、モチベーションも高かった。しかし、中には目的を持たずに来日した学生もおり、日本語学習と進路選択が同時に進められない学生は、次第に学習意欲、出席率の低下が見られた。

秋学期、両クラスを活性化させるために、数人の学生を異動させた。B クラスの優秀な学生が A に異動することによって、A クラスが活性化した。相変わらず日本語力の差があったが、その差がマイナスにならず、協働で学び合う風景も見られた。

2016 年 3 月修了学生の進路は、山野美容芸術短期大学の美容デザイン専攻 4 名、エステ専攻 1 名、国際コミュニケーション専攻 7 名、別科 2 年目 5 名、他専門学校 1 名、他日本語学校 3 名である。本短大が主な進学先になっていることが分かる。

5. 2016 年度の問題点と今後の課題

2016 年度を振り返り、問題点と今後の課題を記述する。

5-1 非漢字圏の学習者のための学習デザイン

現在、クラスには漢字圏と非漢字圏の学生が混在している。漢字圏は中国や韓国の学生。非漢字圏の学生とは、ベトナムやネパール、インドネシア等、主に東南アジアからの留学生である。

2011 年の東日本大震災以降、漢字圏の留学生は減少し、ベトナムやネパール等の東南アジアの非漢字圏の学生が日本に多く留学するようになった。そのため、多くの日本語教育機関では、教育内容や教育方法の変更を迫られている。中国や韓国からの留学生数が減少を続ける一方、ベトナムからの留学生数は増加を続け、2014 年には前年度 6,290 人から 26,439 人へ、2015 年には 38,882 人、2016 年には 53,807 人と、その数は飛躍的に伸びている（日本学生支援機構「平成 28 年度外国人留学生在籍状況調査結果」2017）。

従来、外国人留学生の予備教育と言えば、専ら漢字

圏の学習者が中心だった。したがって、少なくとも漢字の教え方にそれほど苦勞することはなかった。また、構造シラバスの教科書を使い、初期を6か月で学習するのが一般的なコースデザインだった。

しかし、留学生の母語が多様化し、非漢字圏の学生が増えている現在、そのような一律的なコースデザインは困難になってきている。本学別科も同様である。学生たちの状況に鑑み、工夫はしているものの、非漢字圏の学生にはかなりの負担を強いているのは確かである。もちろん、非漢字圏でも従来の方法で学習に耐えうる学生もいる。しかし、授業についていけない学生も多かったことを考えると、今後は現状に合わせた、新しいシラバスの対応が必要である。

5-2 教室の内と外

日本語教育の教室は、特に予備教育の場合、試験対策に追われ、教室の内と外が分断されてしまうことが多い。たとえば、別科は、山野美容短期大学の一部門であるにもかかわらず、2016年度は、運動会、学苑祭など特別な場合を除いて、短大生、日本語教員以外の教員と交流することは多くなかった。また、大学を取り巻く、様々なコミュニティ（例えば八王子国際交流センターやボランティア）と交流の機会があったにもかかわらず、授業をこなすことで精いっぱいになってしまい、関係することができなかった。他の日本語学校と比較しても別科は、短大生の存在、図書館や大型のパソコン室、食堂、体育館等、施設や環境に恵まれている。恵まれた環境の中で、どのように教室の内と外を繋いでいくか、外のリソースをどのように使い、様々な人と連携ができるか。そのことによって、学生たちの日本語使用をどのように豊かなものにしていくことが可能か、考えていく必要があるだろう。

5-3 キャリアデザインをどのように支援するか

2016年度の学生を見ると、山野で美容を学びたい、という確固とした目標を持って入学してくる学生がいる一方で、何をしたいのか分からないまま入学してくる学生も多かった。また、したいことはあるのだが、それが現実と伴わないという学生もいた。このような、これといった目的を持たず留学してくる学生は、今後留学生の増加に伴って多くなってくることが予想できる。日本語教師は、そのような学生と持続的に対話をしていく必要があるだろう。学生は自分がなぜ日本に留学したのか、日本で何を学びたいのか、そして留学後に何をしたいのか、別科在籍中に考えていく必要がある。

このようなことから、留学生のキャリアデザインを、カウンセリングだけではなく、授業実践として日本語

学習の中に組み入れていくことが必要である。筆者が進路カウンセリングをしていて常々実感することは、学生たちの日本語力という問題である。だからこそ、自らのキャリアをどう考えていくか、しっかり考えるためには、初級の段階から授業に組み込めるようにデザインしていくことが必要である。

6. おわりに

本稿では、山野美容芸術短期大学別科の概要を説明した後、授業の目標、カリキュラムを記述した。次に2016年度の様子を記述し、そこから明らかになった課題を述べた。非漢字圏の留学生の学習の在り方、教室の外との連携、学生のキャリアデザインをどのように支援するか、一年の間に見えてきた課題は多い。だが、それらの課題からわかってきたことは、別科（つまり予備教育）の日本語教育も、他の領域の日本語教育と同様、日本語を教えるだけではなく、学生一人ひとりの人生と向き合い、彼ら／彼女らの自己実現に関わっているということである。そのためにはどのような教育実践が可能なのか。教員一同共に考え、実践していきたい。

文献

- 1) 池田玲子・舘岡洋子（2007）「ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために」ひつじ書房
日本学生支援機構（2017）「平成28年度外国人留学生在籍状況調査結果」
http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2016/index.html

表 1

国語呼称	日本語呼称	グループ1動詞 例) 書く	グループ2動詞 例) 食べる	グループ3動詞 例) する 来る
未然	ない形	書かない	食べない	しない・来ない
連用	ます形	書きます	食べます	します・来ます
終止・連体	辞書形	書く	食べる	する ・来る
仮定	ば形	書けば	食べれば	すれば・来れば
命令	命令形	書け	食べろ	しろ ・来い
その他	禁止の命令形	書くな	食べるな	するな・来るな
	て形	書いて	食べて	して ・来て
	意向形	書こう	食べよう	しよう・来よう
	受身形	書かれる	食べられる	される・来られる
	使役形	書かせる	食べさせる	させる・書かせる
	使役受身	書かせられる	食べさせられる	させられる 書かせられる

表 2

別科Aクラス 2017年度 6月スケジュール

担任:佐藤

	1	2	3	4
	1限(9:00~10:40)		2限(10:50~12:30)	
31 水	川口	第9課:応用練習「書く」作成	吉田	漢字:日本語総まとめ(第3週:5日目・6日目)
1 木	創立記念日(休み)			
2 金	佐藤	クラスゼミ	高田	漢字:日本語総まとめ(第3週:7日自突読問題)
3 土				
4 日				
5 月	渡邊	第10課の導入と語彙	高田	漢字:日本語総まとめ(第4週:1日目・2日目)
6 火	森田	第10課本文+α	若佐	漢字:日本語総まとめ(第4週:3日目・4日目)
7 水	川口	第10課:応用練習「書く」→発表	吉田	漢字:日本語総まとめ(第4週:5日目・6日目)
8 木	佐藤	第10課の語彙復習(第10課に出てくる漢字の読み)	高田	漢字:日本語総まとめ(第4週:突読問題)
9 金	佐藤	クラスゼミ	高田	漢字:日本語総まとめ(第5週:1日目・2日目)
10 土				
11 日				
12 月	渡邊	第11課:復習と関連表現	高田	漢字:日本語総まとめ(第5週:3日目・4日目)
13 火	森田	第11課:応用練習	若佐	漢字:日本語総まとめ(第5週:5日目・6日目)
14 水	川口	第12課の導入と語彙	吉田	漢字:日本語総まとめ(第5週:7日自突読問題)
15 木	佐藤	第12課の本文	高田	漢字:日本語総まとめ(第5週:7日自突読問題)
16 金	佐藤	クラスゼミ・テストFB	高田	教科書の復習
17 土				
18 日				
19 月	渡邊	中間テスト	高田	中間テスト(1課~12課)
20 火	カウンセリング			
21 水	カウンセリング			
22 木	カウンセリング			
23 金	カウンセリング			
24 土				
25 日				
26 月	渡邊	第12課:応用練習「書く」→話し合う	高田	漢字:日本語総まとめ(第6週:1日目・2日目)
27 火	森田	第12課:「練習問題集」	若佐	漢字:日本語総まとめ(第6週:3日目・4日目)
28 水	川口	第13課の導入「自分にとっての最高の出会い」と語彙	吉田	漢字:日本語総まとめ(第6週:5日目・6日目)
29 木	佐藤	第13課の本文	高田	漢字:日本語総まとめ(第6週:7日目)
30 金	佐藤	クラスゼミ	高田	漢字:日本語総まとめN2(第1週:1日目・2日目)